

提出し、区に要求を出すだけでなく直接支援も行おうと始まったとくみ。

新宿 対区交渉について各団体から要求を出し合い区に提出、回答が来たので1月末くらいに懇談を予定している。区に要請して、生活保護についての案内ポスターを銭湯にはしだすことが実現した。吉住区長は区民のくらしに目を向けていない。滞納問題を理由に外国人の国保加入者に保険料の前納制を導入しようとしている。区議会陳情を12月議会で準備中。来年11月に区長選挙がある。

国側は「最高裁判決については事実上争わない」としながら「控訴理由は撤回しない」「新たな資料はないが裁判はする」という不誠実な態度をとっていることが報告されました。

参加者からは「暑い夏を乗り越えてきたが、このまま亡くなってしまいう人も。一人ひとり健康に気を付けて完全勝利を目指してがんばろう」と決意表明がありました。次の進行協議は12月23日(火)10時30分となりました。

地域社保協の情報をお寄せください

地域の取り組みの交流で運動を前進させましょう！
チラシ・議案
東京社保協へメールで
情報提供をお願いします ニュースなど

新生存権裁判東京高裁進行協議 最高裁判決をないがしろにする 厚生労働省とのたたかい



10月10日(金)に、昨年6月に東京地裁での勝利判決に対する控訴審の進行協議が行われました。当日は、最高裁判決をないがしろにする厚生労働省にたいして、勝利判決を積み上げ追い詰めていこうと、朝9時から厚労省前で宣伝、入廷行動、進行協議、衆議院会館での報告集会という流れで取り組みました。

進行協議には、6人の弁護団と4人の原告が参加。進行協議終了後、衆議院会館に移動して報告集会が持たれました。

報告集会では、黒岩弁護士から今回の東京の裁判について「最後の裁判として、厚労省の蒸し返しを許さないために位置づけは大きい。」と、意義の確認がありました。

学んで闘う秋の運動 東京社会保障学校 仲間を誘って参加しよう

11月22日(土)今年も東京社保学校を開催します。社会保障をめぐる情勢はますます深刻です。豊かな社会保障を実現していくためには、まずは学習して確信を深めることに限ります。

私たちを団結させないために、様々な分断が持ち込まれています。そんな策動は跳ね返し確信持って元気に運動を進めるために、仲間をたくさん誘って参加しましょう。

Tokyo Social Security School 53rd No.2

第53回 東京社会保障学校

■ 第1部講演
社会的危機の歴史的背景と闘いの方向
後藤 道夫 氏
慶応文学部名誉教授
民主国家権限研究会共同代表、仲間闘争「いのちとくらし」副理事長、東京大学客員教授、1947年前期学生連合、現代日本の貧困を<>開発主義国家体制と日本型雇用の崩壊>の視点から分析し、「新たな福祉国家」の構築を提唱。

■ 第2部講演
「全世代型社会保障改革」による医療・介護をめぐる状況(仮)
寺尾 正之 氏
日本医療総合研究所研究・研修委員

日時：2025年11月22日(土)
13:30~16:30
場所：けんせつプラザ東京+ZOOM併用

QRコード、または下記URLのフォームよりお申し込みください。登録したメールアドレス宛に必要情報が自動返信されます。
https://forms.office.com/r/c6lnf5p2d1
会場参加の方のみ、FAXでも受け付けられます。

主催 東京社会保障推進協議会
電話：03-5395-3165 メール：t.k25@tokyo-syaho.net

全国各地で国保改善運動を進めよう 中央社保協 秋の国保改善運動交流集会 12月7日(日)砂防会館別館3階 10時30分~永田町4番出口1分

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F
TEL:03-5395-3165 FAX:03-3946-6823
東京社保協 検索

いのちまもる秋の運動スタート 平和と社会保障を立て直そう! 誰一人取り残さない大運動を東京のすみずみから

地域社保協の活動交流と 知を力に新介護署名の意志統一 地域社保協交流集会



10月11日(土)ラパスホールで地域社保協交流集会が開催され、10地域16人が参加しました。

集会では、初めに大嶋事務局次長を講師に新介護パンフを使って学習、介護保険の問題点や、現在起きている深刻な事態をふまえ、今取り組みが始まっている「新介護署名」の意義を再確認しました。

次に、森事務局長から国保問題についてのおさらいとマイナ保険証への移行後の滞納問題について、厚労省通達を踏まえ各地域で自治体への申し入れ行動を強めようと呼びかけがありました。

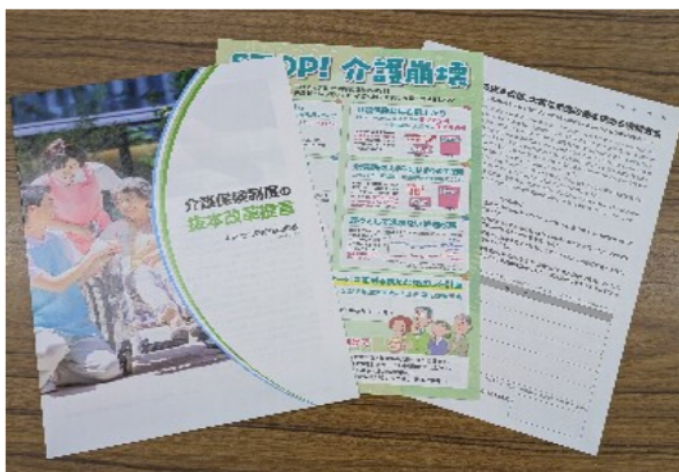
その後、休憩をはさんで各地域社保協から取り組みの報告があり交流しました。

とりわけ、新介護署名については、「介護保険制度の抜本的な改善と、大幅な処遇改善をしないと、このままではこれまで以上に深刻な事態になってしまう。学習をして署名を広げよう」と意思統一が進みました。

行動提起では、まずは11月20日(木)に予定されている第1弾介護署名国会提出行動に新介護署名と「私の一言」をもちより成功させよう、と呼びかけがありました。

介護保険制度学習を 旺盛に進めよう 地域社保協にパンフ無料配布

東京社保協では、地域社保協のみなさんに、地域で学習を進めるために「介護保険制度の抜本改革提言」パンフを無料で配布します。署名用紙とあわせて必要部数を東京社保協事務局までメールやFAXでお知らせください。mail t.k25@tokyo-syaho.net



介護保険制度の抜本改善 大幅な処遇改善を求める 請願署名第1次提出集会

中央社保協では、新介護署名の第1次提出集会を計画しています。秋の臨時国会に向け、内閣総理大臣&厚生労働大臣宛て「介護保険制度の抜本改善、大幅な処遇改善をもとめる私のひとこと要望書」にも取り組んでいます。

日時 2025年11月20日(木)
会場 衆議院第2議員会館 第1会議室
12時 集会開始
連帯あいさつ・国会議員あいさつ・署名提出
12時30分 厚労省要請
要望書提出・現場からの訴え
13時15分 国会議員要請行動

新しい都議体制で初めての都議会に向け ケア労働者の実態訴え

福祉保育労東京地本（抜粋）



9月24日(水)に、新たな体制となった都議会初めての開会日行動が行われました。集会で、ケア労働者の実態について福祉保育労東京地本の國米さんがケア労働者の実態についての発言をご紹介します。

国の法律で定められている最低賃金は10月からは1226円。5年前と比べたら2割以上も上がっています。

しかし、介護の職場・障害福祉の職場・保育の職場、福祉事業所で最低賃金の引上げに見合う報酬や公定価格の改善がされていません。その結果、他産業との給与格差はさらに拡大し、せっき資格を持っている、特に若い人たちが福祉の仕事に来ない、あるいは見切りをつけて辞めてしまう状況です。

さらに、最低賃金や初任給を引き上げて職員を確保したいがために、「中高年層の給与水準を引き下げる」あるいは「何年働いても最低賃金のまま」と、長年利用者のために現場を支え働きつづけている人に不利益な扱いをしてしまう。これでは一生懸命働きつづけてきた人も職場をやめてしまうし、これから働こうとする人もそれを見ていなくなるのではないのでしょうか。

こうした事態は、多くの場合、経営者が悪いんじゃないで、8時間働いてもまともに生活できるような介護保険制度・保育制度にしている国が悪い。そして国がやらないからと言ってきちんと対応してこなかった東京都や自治体も悪い。スキマバイトと呼ばれるスポットワーク。ケア労働者のなかでも広がっています。人権をまもる仕事をしている人が、人権を保障されていない実態です。

先日、介護職場で働く組合員たちに「いま、



何を国や東京都に求めたいですか」そう聞きました。みんな口をそろえて「ただ私たちはいい介護がしたいんです」と言っていました。

「やってほしいことがあっても、忙しすぎる職員を見ていると頼めないんだろうな」

「人手が足りない中、ギスギスした人間関係のなかで介護されるのはきっと嫌だろうな」

「もっと私たちも利用者と話をしてほしい丁寧な介護がしたい。それができないのが何よりもつらい」そう話していました。

利用者の人権保障が私たちのケア労働の働きがいであり誇りです。それすらも奪いような冷たい都政に対して、福祉保育労東京地本はこれからも声をあげて変えていきたいとおもいます。

《福祉保育労東京地本 國米秀明さん》

巣鴨駅でも新介護署名おひるめ 久しぶりの4の日宣伝



10月14日(火)巣鴨駅前で行った4日宣伝を行い、6団体から18人が参加しました。この間、7月は選挙期間中だったため「サイレント」で実施、8月はお盆休みと猛暑でお休み、9月は新宿宣伝ということで、巣鴨駅では久しぶりの音出し宣伝となりました。宣伝では、ケア労働者の処遇改善や、介護保険の抜本改善の署名への協力が呼びかけられました。介護報酬は上がったのではないですか」との質問が寄せられ、訪問介護事業所の深刻な実態など話すと、快く署名をしてくれる人、「私はこれから介護の仕事に就こうと思っているんです」と話しかけてくる人など関心の高さがうかがわれました。

休み、9月は新宿宣伝ということで、巣鴨駅では久しぶりの音出し宣伝となりました。宣伝では、ケア労働者の処遇改善や、介護保険の抜本改善の署名への協力が呼びかけられました。介護報酬は上がったのではないですか」との質問が寄せられ、訪問介護事業所の深刻な実態など話すと、快く署名をしてくれる人、「私はこれから介護の仕事に就こうと思っているんです」と話しかけてくる人など関心の高さがうかがわれました。

次回の4の日宣伝
11月14日(金) 巣鴨駅で 12時から
12月25日(木) 大塚駅で
クリスマス宣伝！ 12時から

市民要求実現めざし市長・副市長に 直接要望書を手渡し懇談 東久留米社保協

10月6日、東久留米社保協は、東久留米市長に要望書を提出、市長と副市長が直接対応し懇談しました。

当日は6団体8人が参加し、要望項目に沿って訴えを行い、あわせて「きこえの会」とともに取り組んだ、補聴器購入助成実現に向けた署名1374筆も市長に手渡しました。

この署名は、西都保険生協が診療所待合室や班会で集めたり、年金者組合が高齢化率の高い都営住宅やUR賃貸住宅で戸別訪問したり、事前回収予告や届け先指定の各戸配布をするなど工夫して集めたものです。

懇談では社保協の井口会長から「財政難を理由に市民要望を受け付けないままでは東久留米市の魅力が失われてしまう。今こそ東久留米市政が市民と市職員の力を結集し、市民の要望を一つ一つ着実に進める市政運営を求めます」とあいさつを行いました。

各地域・団体の取り組み

各地で粘り強い自治体要望・懇談 地域社保協交流集会経験報告から（抜粋）

練馬 社保協の危機は社会保障の危機として、各団体の連合体としての社保協の役割を再確認しようと話し合っている。対区交渉をしてその報告集会をするのに、区民に宣伝や周知をどのように簡潔にわかりやすくしていくか検討中。

大田 毎回の区議会には社保協として陳情を出そうと取り組んでいる。

区内の介護事業所にアンケート調査を行い、それをもとに区議会各会派へ懇談を申し入れたところ立憲の区議が請願の紹介議員になってくれた。

板橋 今年初めて区との懇談に取り組んだが今後も継続的に取り組んでいきたい。

日野 国保や介護の問題について市にどのように持っていったらいいか。市の介護保険課は、懇談を申し込むと出向いてきてくれる関係ができています。

また、「最近この要望書に文書で回答したことをもって、担当課が個別の懇談を拒否する事例が出ている」と指摘、各団体と担当部課との懇談を改めて強く求めました。

市長は、市の財政についてやりくりが大変としながら「一つ一つの要望について否定する立場ではない。恒常的にサービスを続けられるか検討が必要。市民の暮らしをよくしたいという考えは同じ」と回答しました。

今回は、要望書を手渡しして趣旨説明をしましたが、市からは今後文書で回答が来る予定です。東久留米社保協では届いた回答を吟味し、担当課との懇談などを積み上げ、諸要求実現のために引き続き取り組みます。

《東久留米社保協事務局長 平尾敏之さん》



足立 昨年度取り組んだ国民健康保険料引き下げのとりくみでは、区議会各会派との懇談も実施し、引き下げができたことがみんなの確信になった。

台東 社保協として議会に請願・陳情を提出しているが、署名付きで出すと「不採択」にできないようだ。これまで何度要求しても実現しなかったが昨年度急に補聴器助成が実現した。制度の使い勝手がよくないので今後は改善要求を進めたい。

北 毎月のなんでも相談で寄せられる内容を集約して対区交渉で報告している。区民生活の深刻な実態なので説得力がある。

町田 高齢者の要求を取り上げ市に要求し回答が来ているのをもとに再度要請し、11月4日に3項目について改めて懇談することになっている。2月15日が市長選挙となっている。政策協定を結び取り組んでいく。

葛飾 聞こえの問題については補聴器助成について、区が制度を作ったというだけでなく、より良いものにするために小集会を開催し相談会を進めている。

生活支援プロジェクトについては、要求書を区に